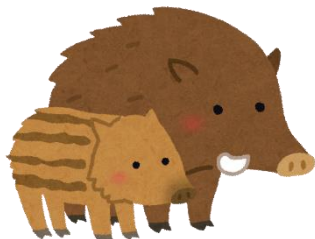


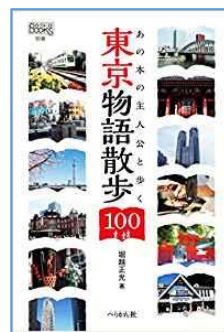
TC 通信

№85 2019年1月号

- ◆ティーンズ世代=10代のための読書情報誌です。(旧YA通信)
- ◆ご紹介する本は特に記載がない限り、図書館3階ティーンズコーナー所蔵です。



ティーンズコーナーに新しく入った本からピックアップ。



『あの本の主人公と歩く東京物語散歩 100』

堀越 正光/著 ペリかん社 910.26/A/18

東京の街にある特に特徴のない通りや、名前も意識しない小さな公園。実はその場所は、小説の中で主人公が歩き、ストーリーが動くきっかけとなった場所かもしれません。東京という街は作家を引きつける魅力にあふれているようです。

実際に本に登場した場所を訪れてみると、初めて読んだときには気づかなかった新たな発見がありそうです！作者はなぜその場所を自分の小説に描いたのか、考えを巡らせてみるのもおもしろいですね。

夏目漱石「それから」の舞台・金剛寺坂、東野圭吾「容疑者Xの献身」の舞台の亀戸・隅田川などの東京都東部、また似鳥航一「お待ちしてます下町和菓子 栗丸堂」の舞台、台東区・浅草・オレンジ通り・・・。

古典的名作からライトノベルまで、東京にまつわる100の物語と100の場所が紹介されていますが、魅力的な本が多数紹介されているので、今まで読んだことのないあなたの読みたい本が見つかるかもしれません。

名作 たからばこ



『金閣寺（決定版 三島由紀夫全集 第6巻）』

三島 由紀夫/著 新潮社 918/ミ/01-6 4階一般

1950年（昭和25年）、実際にあった「国宝 金閣寺放火烧失事件」を題材にした、青年僧侶と金閣寺の美をめぐる作品です。海外でも多数翻訳されています。

貧しいお寺に生まれた主人公は、父親から「金閣寺より美しいものはこの世にない」と言われて育ちました。しかし父親に連れられ、実際の金閣寺を目にした時、その理想の美とはかけ離れた「現実の金閣寺のつまらなさ」に愕然とします。

自分の心の中にある理想の金閣寺と、現実のつまらない金閣寺とのギャップに違和感を感じながら、主人公は「美とは何か」という考えにとりつかれることになります。そして「究極の美」に執着し、葛藤や苦悩の末にとうとう・・・。

一読ではわかりづらい表現があるかもしれませんが、三島文学の原点ともいえる名文に、一度触れてみませんか？

テーマ 雪

みなさんは、「雪」と聞いてどんなことを思い浮かべますか？
わくわくする、楽しい、寒い、きれい、食べたい…
今回は、今の季節にしか出会えない「雪」を、色んな視点から楽しめる本たちをご紹介します！



『スノーフレイク』 ケネス=リブレクト/著 パトリシア・ラスムッセン/写真
でがわ あずさ・広田 敦郎/訳 山と溪谷社 451.6/ス/06 4階一般

二重星、半星状などの星型、扇形、広巾十二花、鼓型…。
さらびやかなデザインの宝庫ともいえる雪の結晶。こんな素敵でデザインを生み出す雪は
“創造の天才”と言えるかもしれません。
対称性、形成の形態、また結晶を形成する気象条件などいろいろな角度から雪の結晶につ
いて美しい顕微鏡写真とともに解説されています。
自然の造形美を堪能できる1冊です。

『Alaskan dream 1 星の物語』

星野 道夫/著 三村 淳/構成 TBSブリタニカ 748/ア/02-1

一瞬をとらえたアザラシやホッキョクグマたちのさまざまな表情や姿の数々。そしてこれら
を撮影するのに、何日も何日も冷たい雪と氷の上でファインダーをのぞき続けたであろう
写真家星野道雄氏。アラスカに魅せられ、19年間、死と隣り合わせの広大な大地で、写真を
撮り続けた故星野道雄氏の写真集です。

写真をとおして、極寒の雪原に生きる動物たちの、命を営むひたむきな姿に胸を打たれま
す。親子のふれあいや愛らしい表情の奥に、星野氏の動物たちへの優しいまなざしが感じら
れます。写真はほとんど白一色ですが、星野氏自身が「人生を閉じる瞬間に強烈に思い出す
であろう」とつぶやいたオーロラの写真が色を添えています。



『雪と氷の疑問60』 日本雪氷学会/編 高橋 修平・渡辺 興亜/編著

成山堂書店 451.6/ユ/16 4階一般

春日井市では積雪量は少なく、雪に触れる機会はお中々ないかもしれません。
ですが幼い頃、一度は考えたことがあるのではないのでしょうか？
雪にシロップをかけて食べられるのではないかと、という疑問。

答えてくれます、この一冊。

なんだかわくわく雪が積もるのを、窓から見ていたあの頃を思い出してください。
実践するかは本を読んでから、じっくり考えて決めてくださいね。

その他にも身近な雪の疑問から、宇宙規模の疑問まで様々な60の疑問が解説されてい
ますので、読み応えのある一冊となっています。

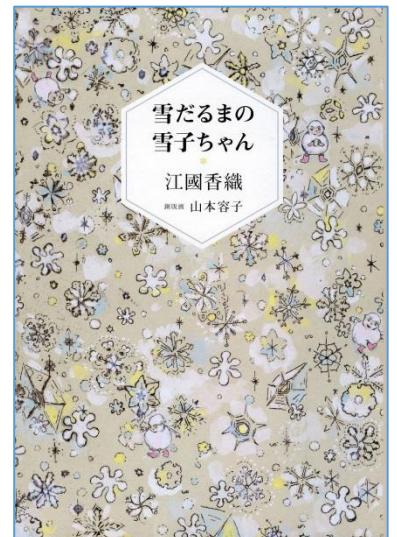
『雪だるまの雪子ちゃん』 江國 香織/著 山本 容子/銅版画

偕成社 913/カイ/09

山のふもとのおとぎの村はずれに住む、雪だるまの雪子ちゃんは、大雪が降
った日に百合子さんの庭にやってきた正真正銘・野生の雪だるまの女の子です。
道に作られた雪だるま(！?)にビックリしたり、お友達の百合子さんやたる
さんと一緒にポーカーをしたり…。雪子ちゃんの毎日は、驚きと幸せでいっぱい
です。

長編童話ということで、雪だるまが生活しているというファンタジーなお話
ですが、どこか懐かしく、温かい物語です。山本さんの銅版画も物語をやさしく
彩ります。

私たちの世界も物語の始まりのように雪の降る季節となりました。窓の外の
景色を見ながら物語の雰囲気味わうのも面白いかもしれませんね。



ボランティアさんのオススメ本 (アリスの会)



『幸福の王子』 オスカー=ワイルド/原作 曾野 綾子/訳 建石 修志/画

バジリコ 933/コ/06

王子とつばめの犠牲愛だけの物語ではなかったのだと。

権力者への批判とそれに群がる人々のあさましさ。

銅像となった王子が、生前の自分は何も見ていなかったとなげくシーンがありますが、知らないでいることの罪悪を教えてくれています。

多くの翻訳が出ていますが、本書のラストの訳者のこだわりが、読むきっかけになりました。ぜひ、読み比べてください。

図書館員Aの本棚

さむーい冬。朝、布団から出たくない季節ですね。そんな時には、この言葉『冬眠』。皆さんは冬眠と聞いてどんなイメージを思い浮かべますか？雪山の洞窟にクマ？それとも小説や映画のようなコールドスリープでしょうか？

現在の科学では、冬眠はここまで解明されてきています。近い未来には現実となりうるかもしれませんね。

ちなみに人間向きではなさそうですが、夏眠もあるそうですよ。

ちょっとした息抜きに一冊、なんだか憎めないくまの話も入れてみました。

ぜひ読んでみて、冬眠の実現化をよろしくお願い致します。



『クマですが、イヌです』

ダイアン=フォックス・

クリスチャン=フォックス/作

青山 南/訳 光村教育図書

E/ミツ/16-27 3階児童



『冬眠の謎を解く』

近藤 宣昭/著

岩波書店

481.7/ト/10 4階新書



『「人工冬眠」への挑戦』

市瀬 史/著

講談社

491.3/シ/09 4階新書



TC担当イチオシ!

『The Pen』

池田 学/著 青幻舎 723.1/サ/17

どんな本?

日本の画家・池田 学さんの、画家人生20年の集大成ともいえる画集です。絵はもちろんのこと、代表作「誕生」の制作秘話なども載った1冊です。

ここがオススメ!

オススメは、やはり絵です。

繊細でとても手で描いているとは思えないくらいの素晴らしさです。今回の画集には拡大されたものも載っていて細部にいたるまで楽しむことができるのですが、拡大をしてもその素晴らしさは変わりません。むしろ拡大されたからこそ「えっ、ここにも!!」という発見があるほどです。

さらに東日本大震災を思い描いた代表作「誕生」(拡大されて表紙を飾っています)は、絵でありながら言葉や文字でなくてもこんなに感情が伝わってくるのだと思わせてくれます。

みなさんぜひ池田ワールドを体験してみたいはいかがでしょうか。

ティーンズコーナーとは??

中高生(ティーンズ)世代に向けたさまざまなジャンルの本を集めたコーナー。図書館3階にあります。大きな看板が目印!

児童書よりも文字数が多くむずかしい本へのステップアップをはじめ、悩み解決のヒントになる本・知識を深める本・趣味を広げる本などをたくさん用意しています。

「〇〇について調べたい!」
「△△の本はどこ?」など、
本に関する相談や探し物は
職員に気軽に聞いてみてね。



©Kasugai City 2008
春日井市立図書館「読書くん」

発行：春日井市図書館

春日井市鳥居松町5-44 TEL(0568)85-6800

<http://www.kasugai-lib.jp/>

※表紙画像の掲載にあたっては出版社から許諾を得ています。